



Press
Conference

音楽監督 ジョナサン・ノット 2015年度 シーズンラインナップ 記者会見コメント — 抜粋

2014年12月8日(月) ミューザ川崎シンフォニーホール内にて

“おはようございます”(日本語で)—— 楽団員達と交わすこの挨拶がいまとても気に入っています。

来年のプログラムというものはオーケストラと私の関係をより深いものにするもの、そして私が求めている音、そしてその様式等が完成されていくように…ということで選曲しています。そしてプログラミングのもうひとつの要素として私の大好きな曲であること、聴衆の皆様喜んでいただける曲ということもあります。作品、プログラムの中で小さな旅、作品から作品へ移っていく過程も楽しめたらと思います。そしてこのオーケストラの成長をさらに発展させるために、二つのことに焦点をあてていきたいと思っています。それはソノリティ(音)、そして歌のライン。このソノリティ、音という意味では様々な方法があり、個々の演奏家と話し合う、音にどのようなアタックで入るか、そしてどのような響きにするのか、そして楽器間のバランスを変えていったり、ということ(マラー千人の)リハーサルで行っていました。例えば、トランペットやクラリネット、オーボエの各首席奏者は一番大きな音で、2番奏者はちょっと弱く、3番奏者はさらに弱く…といったようないわゆる伝統的なヒエラルキーをきっちりとして演奏しているので、私はそのまったく逆を求めました。3番奏者に一番大き

な音を、2番奏者がやや弱く、首席奏者には一番弱く演奏してもらいました。弦楽器陣にも同様のことを言いました。私の周りを囲む各弦楽器の1列目に座る首席陣は元々音をリードしています。ですが実際に支えている音というのは後ろに座る奏者達が作っているものなのです。突然そういうことをさせられたからか、楽団員達は音に対する概念が変わったのでしょうか、演奏そのものがガラリと変わりました。

そして技巧性ということにも焦点をあてたい。音というものは時代によって変わらなければならない。プログラムによって音を変えなくてはならないだけでなく、作品から作品、一つのプログラムの中でも時代が変われば音も変わらなくてはいけないと思っています。

私が、現代音楽ではなくて、ベートーヴェン5番を指揮することに驚かされている方がいらっしやるということを聴きました。…(中略)ベートーヴェンの顔を想像してみるんです。そのベートーヴェンが白紙の前に佇み、そして彼の中では真っ赤に燃えている創造性がある、そしてそれを曲にしていく。その時のインスピレーションに添うような演奏をしたいのです。ただただ昔からよく知っている曲を繰り返して演奏するのではなく、そういったインスピレーションも皆様に伝えたいと思ったわけです。

6月定期演奏会 メタモルフォーゼン&ブルックナー:交響曲第7番

両方とも和声が斬新でメロディが濃厚です。(中略)メタモルフォーゼンは室内楽ではないと思うかもしれませんが、それだけ濃厚な音作りですが、実際にステージに出てくるのはたった23人の弦楽器奏者です。この弦楽器の音の世界から続くのは大編成のブルックナーによる金管楽器が特徴的なまったく別の音の世界です。是非この二つの音の世界を楽しんでいただきたいと思っています。

7月公演:細川、ラヴェル、ドビュッシー、バルトーク、ベートーヴェン

暗く神秘的な「循環する海」、暗い響きの「左手のための協奏曲」、そしてイベリアの太陽の

光を感じる「映像」。それらが全て「海」で統一されている流れを象徴的に表したかった。バルトークのピアノ協奏曲第1番は非常に厳しい音で、リズムカルで、推進力が非常に強い作品です。ベートーヴェン5番も少し違うかもしれませんが、リズムという意味で共通点があるのではないかと思います。ということでこの二つのプログラムは対照的な意味で取り上げました。

9月定期演奏会 マーラー:交響曲第3番

宇宙がこの一曲に込められているといっても過言ではない曲だと思います。マーラー3番に関しては、マーラー自身が書いたものを含め様々な文献がありますが、全部読んででもそれですべて理解したと思わないでいただきたいです。

11月公演:バッハ/ストコフスキー、リゲティ、R. シュトラウス、ショスタコーヴィチ、フェルトマン、ドヴォルザーク

11月定期のプログラムは私がとても大切にしているプログラムで、21世紀にいる私たちにとって、過去に残された宝石のような作品を集めてみました。リゲティ作品は過去何度か演奏したことがあり、バンベルク響のコンサートマスターから「最後のメトロノームの音が終わったあと、その後の静寂はすごいものがある」と言われました。最初はこのメトロノームがうるさくて壊したいと思いつつもそれが生命になり代わり、そしてそれが終わってしまう時、というのは本当に言葉では説明できない魔法のような瞬間です。生命と死をとでもうまく表現できていると思います。そしてバッハ/ストコフスキーについても「死」というテーマが取り上げられ、そのまま休みなく演奏するR.シュトラウスのブルレスケはその狂気が生命力を感じさせてくれます。ショスタコーヴィチの作品の中には、もう人生の全

てがつかまっているといっても過言ではないでしょう。最後はパーカッションで終わりますが、打楽器というものがリゲティ作品と同じように、生命の時が音をたてて過ぎていくということが象徴されていると思います。

フェルトマンの音楽というのは非常にゆっくりでありますし、良いホールの中で響いていく一つの音、そしてまた次の音というものに美しさを感じるはずですよ。こうした音楽を聴いていくと、より複雑な現代音楽を聴くための大きなヒントになるのではないのでしょうか。このような室内乐的な音楽を交響曲的なプログラミングに入れ、対してバルトーク、ドヴォルザークという私が大好きな東欧の作曲達の作品を加えたプログラムとなっております。

来シーズンのプログラミングに関して、私自身とても満足しています。基本的には生命、死、その二つを照らし合わせたテーマが根底にあると思います。こうした様々なプログラムを取り上げることで、そして、合わせていくことにより、音楽的な旅路を私自身も楽しめるのではないのでしょうか。この21世紀の初頭に演奏している音楽家として、本当に幸せだと感じるプログラムばかりです。

川崎市のフランチャイズオーケストラとして

徐々にここニューザ川崎シンフォニーホールが「私の居場所」と感じられるようになってきました。川崎市、また市民の皆さんにとって、音楽、そしてこの東京交響楽団がとても大切な存在であるということ、また大変あたたかく迎えていただいていることを感じております。いままで来てくださった皆様、そしてこれから聴いてみたいと思われる方、来シーズンもぜひお越しください。きっと楽しんでいただけることと思います。

音楽監督ジョナサン・ノットの公演三昧も！あなたのお好きな公演を自由にアレンジ。

組み合わせ自由！

選べるプラン

4公演以上で20%OFF 発売中

2015年度シーズンの定期演奏会(10公演)、川崎定期演奏会(5公演)、東京オペラシティアニバーサリーシリーズ(6公演)の全21公演からお好みの4公演以上を選んで同時に申し込む場合、合計金額から20%offにてご購入いただけます。席種もS・A・B席で組み合わせ可能です。※他の割引との併用不可